



令和4年2月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

伊豆東岸定置網 2022年上半期漁海況予報

伊豆分場は、2022年上半期（1～6月）の漁海況を神奈川県水産技術センターと共同で予測しました。黒潮は2017年9月中旬以降、大蛇行流路が継続しており、今期も継続する見通しです。また、大蛇行の影響で海水温は高温傾向にありますが、ラニーニャ現象等により気温は低めと予測されていることを加味し、沿岸水温は「平年並み」と予測しました。マサバ、マイワシ、ブリ資源量は高水準にあり、海況次第ではまとまった来遊が期待できます。一方、ゴマサバ、カタクチイワシ、マアジ資源量は低水準にあり、ゴマサバ、カタクチイワシの来遊量は前年を下回ると予測しましたが、マアジについては昨年の0歳魚の漁獲量が多かったことから前年を上回ると予測しました（表）。また、ゴマサバについては、昨年11月頃から小型魚が多く漁獲されており、今後、漁獲物が小型魚主体に変化することが懸念されます。

表 伊豆東岸定置網における2022年上半期の漁海況予測

海況	黒潮は期間を通してA型で推移する。 沿岸水温は「平年並み」で推移する。 暖水波及時に「高め」～「極めて高め」
マアジ	来遊量は前年を上回る。 魚体は尾叉長20cm前後。
マサバ	来遊量は前年を上回る。 魚体は尾叉長30～35cm。
ゴマサバ	来遊量は前年を下回る。 魚体は尾叉長30cm以上及び25～30cm。
マイワシ	来遊量は好調だった前年を下回る。 魚体は被鱗体長13～15cm。
カタクチイワシ	来遊量は前年並み～下回る。 魚体は被鱗体長9～11cm。
ブリ	来遊量は前年並み～上回る。 銘柄ぶり・わらさ主体。

キンメダイ親魚の冬期捕獲調査

伊豆分場ではキンメダイの種苗生産研究を行っており、通常は、親魚が成熟する夏に捕獲しています。今回は、捕獲時期を変えると生き残りが良くなるか検討するため、1月22日にキンメダイ親魚の捕獲調査を行いました。当日は午前4時に稲取を出港し、海は凪いでいたのですが、とても寒く、手足の感覚がなくなりました。漁師さんに釣っていただいたのですが、キンメダイを44尾釣ることができ、このうち34尾を焼津にある水産・海洋技術研究所に運搬し、駿河湾海洋深層水で飼育を開始しました。今後は生存状況を観察し、親魚候補として養成する予定です。



次々と釣れるキンメダイ

未利用魚の勉強会で講演

1月20日、伊東青年会議所は、水産資源の現状について学び、未利用魚活用への意識向上を目的とした勉強会をweb開催し、当時から「伊東魚市場における主要魚種の漁獲動向と未利用資源の活用について」と題して講演を行いました。講演では、未利用魚を使った加工品開発や、直売所での鮮魚・惣菜販売の事例などについて紹介し、参加者からは「未利用魚の種類は地域によって違うのか?」「未利用魚の活用を進める上で参考にしたい」といった質問や意見がありました。



←講演内容の一部（未利用魚活用事例）

解説：伊東青年会議所：伊東市内の40歳未満の飲食業、建設業、小売業従事者等からなる。伊東市周辺地域の産業や社会の諸問題を調査、研究し、地域社会の発展を目指した取り組みを行う団体。

2月の予定 ● テングサ潜水調査 ● 磯焼け対策用アカモク種苗の提供 ● キンメダイ実践協議会（3日）
● 磯根資源・藻場研究会（14日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。